

**製品名: TGF  $\beta$ 1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21437**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:2000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:44kD;Observed MW:44kD,13kD

**抗原情報**

遺伝子名	TGFB1 TGFB
別名	Transforming growth factor beta-1;TGF-beta-1;[Cleaved into: Latency-associated peptide;LAP;]
遺伝子 ID	7040.0
SwissProt ID	P01137
免疫原	ヒト TGF $\beta$ 1 の組み換えタンパク質

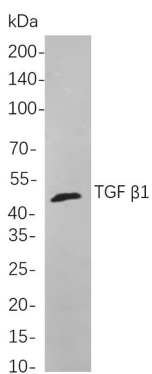
**背景**

細胞局在：分泌型。形質転換成長因子  $\beta 1$  (TGFB1) ホモサピエンス この遺伝子は、TGF- $\beta$  (形質転換成長因子  $\beta$ ) スーパーファミリータンパク質の分泌型リガンドをコードしています。このファミリーのリガンドは様々な TGF- $\beta$  受容体に結合し、遺伝子発現を制御する SMAD ファミリー転写因子のリクルートメントと活性化をもたらします。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって潜在性関連ペプチド (LAP) と成熟ペプチドを生成します。LAP は、成熟ペプチドホモダイマー、LAP ホモダイマー、および潜在性 TGF- $\beta$  結合タンパク質からなる潜在型、または成熟ペプチドホモダイマーのみからなる活性型のいずれかで存在します。成熟ペプチドは、他の TGFB ファミリーメンバーとヘテロダイマーを形成することもあります。このコードされているタンパク質は、細胞の増殖、分化、および成長を制御し、インターフェロン  $\gamma$  や腫瘍壊死因子  $\alpha$  などの他の成長因子の発現と活性化を調節することができます。この遺伝子は

## 研究分野

-

## 画像データ



TGF  $\beta 1$  ウサギ mAb を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。